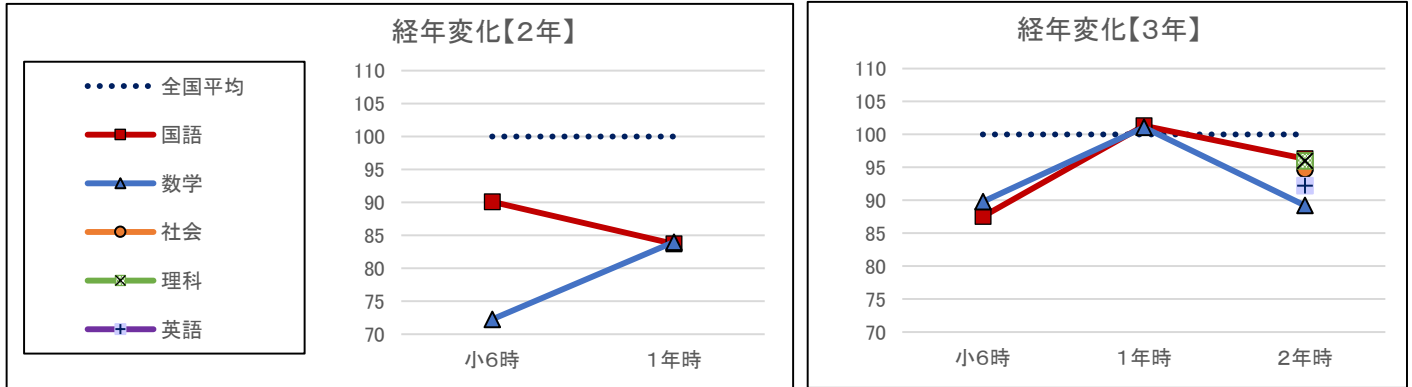


I 前年度の各種調査から見られる学校の状況

※釧路市では、1～2年生を対象に国語と数学で標準学力検査を実施していますが、本校では、独自に2学年で社会と理科と英語も実施しています。

① 標準学力検査の経年変化（全国平均を100とする標準スコア）



② 学校の状況

【標準学力検査 生活行動・学習活動調査 国語（中1・中2）】

- ・「新聞記事などを、自分の考えと比べながら読んでいる」や「話し合いで、自分の考えを積極的に話している」の項目の数値がとて低くなっている。
- ・「国語の授業で予習をしたり、復習をしたりしている」の項目の数値が低くなっている。

【標準学力検査 生活行動・学習活動調査 数学（中1・中2）】

- ・「数学の授業で予習をしたり、復習をしたりしている」の項目の数値が低くなっている。

【標準学力検査 生活行動・学習活動調査 生活行動（中1・中2）】

- ・「夜は、時刻を決めて寝ている」の項目の数値が低くなっている。
- ・「朝食は、家の人といっしょに食べている」の項目の数値が低くなっている。

II 今年度の学力向上に係る重点取組

① 学校全体での取組

授業づくり	学習集団づくり	学習習慣・環境づくり
<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で「『あい』あふれる授業」の展開に努める。 ・明確な目標や課題を提示する。 ・課題について、自分で考えたり、他者と交流したりして解決する活動を、一層積極的に位置付ける。 ・生徒自身が考え深められるよう、ICTを効果的に活用する。 ・まとめや反復、振り返りを確実に位置付ける。 ・授業と連動した宿題を出す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で釧路市授業スタンダードに基づいた授業を行う。 ・アセスを活用し、発言に対して共感的な態度を示したり、安心して意見を言える共感的な人間関係の構築を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝活動として、朝読書や朝学習の取組を計画的に行う。 ・パワーアップ習慣や【家庭学習・メディア時間記録表】を活用して、家庭での学習を促す。 ・放課後学習や長期休業中の学習会を実施し、個に応じた学びができるようにする。 ・宿題や家庭学習に取り組ませることにより、個に応じた学習方法や学習時間を自らで考えられるようにする。

② 各教科での指導の重点

国語科の重点

- ・ 授業者の発話を厳選し、生徒が個人思考と集団思考を往還させながら課題解決に取り組む授業を構築する。
- ・ 「書くこと」の「記述」の力を高めるために、事例や知見を引用しながら書く活動や、互いに助言し合う推敲・共有の活動を設定する。
- ・ 「読むこと」の「構造と内容の把握」「精査・解釈」の力を高めるために、読んだことをまとめて表現したり討論したりするなど、目的意識をもって読める活動を行う。
- ・ 「言葉の特徴や使い方に関する事項」の定着を図るため反復学習や家庭学習指導を行う。

数学科の重点

- ・ 問題を見だし、必要感をもてる課題を設定する。
- ・ 生徒が個人思考と集団思考を往還させる活動をICTを活用し充実させる。
- ・ 学習内容の概念的理解が図られるよう、的確な問い返しを行う。
- ・ 学習内容が身に付いたことを実感できるよう、振り返りを設定する。
- ・ 学習内容の定着を図るため、反復学習や家庭学習指導を行う。

社会科の重点

- ・ 生徒の発言を活かし自ら考える必要感をもてる課題を設定する。
- ・ 生徒が個人思考と集団思考を往還させ多面的・多角的に考察する活動をICTを用いて充実させる。
- ・ 「わかったつもり」ではなく「本当に理解した」になるよう、身に付いたことが実感できる振り返りを行う。
- ・ 学習内容の定着を図るため、反復学習や家庭学習指導を行う。

理科の重点

- ・ 身近な現象から「なぜ?」「確かめてみたい」と思える知的好奇心を喚起する課題を設定する。
- ・ 生徒自身が、課題解決のための実験等への見通しをもったり、実験結果から考察したり、それらを表現したりするためにICTを活用する。
- ・ 学習内容が身に付いたことを実感できるよう、振り返りを設定する。
- ・ 学習内容の定着を図ったり、日常生活と関連付けて考えられるよう、反復学習や家庭学習指導を行う。

英語科の重点

- ・ 「何をするか」が明確になるように課題を設定する。
- ・ 主体的に活動に取り組めるような、「目的・場面・状況」を設定するとともに、効果的な教材・教具を活用する。
- ・ 自らの考えをまとめたり、他者と交流したりする活動を充実させる。
- ・ 何を学習したのかを実感できる振り返りを設定する。
- ・ 学習内容の定着を図るため、家庭学習につながる指導を行う。

音楽科の重点

- ・ 音楽への興味・関心を高めるため、バランスよく、幅広いジャンルの音楽を取り扱う。
- ・ 感じ取った音楽の美しさを表現したり、根拠をもって批評し合ったりするなどの活動を設定する。
- ・ 表現の学習では、自己評価・相互評価に活用できるよう、ICTを活用する。

保健体育科の重点

- ・ 運動やスポーツの楽しさを味わうためには、どのような活動をすればよいのか、必要感をもって取り組めるような、単元を通した課題や1単位時間の課題を設定する。
- ・ 課題の解決に向けて、自己評価したり相互評価したりするためにICTを活用するとともに、考えたり表現し合ったりする時間を確保する。
- ・ 自他の変容を自覚できるよう振り返りを設定する。

美術科の重点

- ・ 発想や構想に関する資質能力を高め、見方や感じ方を広げるために、絵や彫刻、デザインや工芸などをバランスよく扱う。
- ・ 表現においては自分の作品を製作したり、その過程を記録として保存したりするために、また鑑賞においては、自分の考えを表現したり、他者と交流したりするために、ICTを効果的に活用する。

技術・家庭科の重点

- ・ 日常生活と関連付いた必要感のある、「何をするか」が明確な課題を設定する。
- ・ 生徒自身が、課題解決のための活動への見通しをもてる時間を確保する。
- ・ 自分の考えを表現したり、他者と交流したりする活動を充実させる。
- ・ 生徒の思考の流れを可視化し自分の考えを表現するためにICTを効果的に活用する。